

氏名 坂 本 裕 治

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 1757 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和62年 3 月 31 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）

学 位 論 文 題 目 B 型慢性肝疾患における肝細胞膜表面免疫グロブリンの酵素抗体法
による検討

論 文 審 査 委 員 教授 太田善介 教授 木村郁郎 教授 新居志郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

B型慢性肝疾患43例（慢性肝炎39例，肝硬変4例）において，肝組織中の肝細胞膜表面免疫グロブリン（IgG，IgA，IgM）の有無を光顕および電顕酵素抗体法で観察し，血中ならびに肝内HBウイルス関連抗原・抗体との関連をもとに，その意義について考察した。B型慢性肝炎の7例で細胞膜表面にIgGが分布する肝細胞が散在性ないしは一部集簇して観察された。これら7例は全例，肝内HBc抗原陽性でかつ活動性の強い慢性肝炎であり，さらにHBc抗原陽性肝細胞の免疫電顕の観察では，一部の肝細胞で小胞体膜や細胞膜に一致してHBc抗原の局在が観察された。以上の所見よりこれら膜表面IgGは肝細胞膜に表出したHBc抗原と結合したHBc抗体の可能性も示唆された。しかし，急性増悪後に膜表面IgGの認められた症例ではHBc抗原陽性肝細胞も少なく，膜表面IgGの成因として，HBウイルスの active replication の時期に出現するHBc抗原以外のウイルス関連抗原や neo - antigen に対する抗体，さらには肝細胞膜特異抗原に対する自己抗体の可能性も考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はB型慢性肝疾患43例（慢性肝炎39例，肝硬変4例）において，肝組織中の肝細胞膜表面免疫グロブリン（IgG，IgA，IgM）の有無を光顕および電顕酵素抗体法で観察し，血中ならびに肝内HBウイルス関連抗原・抗体との関連をもとに，その意義について考察したもので，観察されたこれらの膜表面IgGは肝細胞膜に表出したHBc抗原と結合したHBc抗体の可能性を示唆した価値ある業績と認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。